

第26期第16回常任理事会議事録

日時：7月1日 13時30分～18時30分

場所：気象庁 気象学会事務室

出席者：浅井，竹内，小倉，松野，木田，藤谷，村上，
安富，安成，中村，佐藤

議事

A. 報告事項

1. 各委員会報告

「庶務」

- ・後援等名義使用依頼が2件。
- ・理事変更届及び会費改訂に関する定款の一部改正の申請を文部省に行った。
- ・1993年度春季大会（気象庁予報部），秋季大会（東北支部）の担当依頼済み。

「会計」

- ・5月の収支計算結果の報告。

「天気」

- ・6月号の内容及び，7，8月号の予定。
- ・第40巻からのCPS化の計画案と表紙のデザイン案の検討進捗状況の報告。

「気象集誌」

- ・70巻4号の内容。

「気象研究ノート」

- ・編集委員会の報告と企画の進捗状況。

「講演企画」

- ・ポスターセッションの長・短所の整理をした。今後の検討のたたき台とする。
- ・第13回常任理事会議事録は『6. 地球惑星科学関連学会連絡会が主催するWPGM '92(香港)の共催は，検討の結果，協力名義不参加とすることとした。』と訂正する。（「天気」6月号に訂正掲載）

「教育と普及」

- ・第26回夏季大学計画の進捗状況。
- ・気象談話室の企画の進捗状況。

「国際学术交流」

- ・前期補助の高藪氏から辞退届。

「IAMAP」

- ・実行委員会の活動報告。
- ・募金委員会（和達清夫委員長他約60名；趣意書

の作成を行い活動開始の予定）。

- ・8月に2ND CIRCULAR 発送の予定。
- ・6/30学術会議との共催についての閣議了解得られた。組織委員会のもとに16名の運営委員会が発足した。

「通信メディア」

- ・5月の着信件数360件。

「各賞」

- ・「山本賞・正野論文賞」及び「奨励金受領候補者」のそれぞれの選考委員長から候補者の報告があったことが理事長から報告された。細則に基づいて理事投票を行う。
- 2. 「日本複写権センターへの複写権の委託について」の「天気」への掲載について
 - ・担当理事から提案があり，細部の意見を7月6日までに集約し8月号へ掲載することとした。
- 3. 気象審議会第18号答申に係わる事項の検討WGの報告
 - ・WGから本件の検討参考資料の整理を行い，秋季大会での理事会へ検討資料を提出することを目標とすることが報告された。

B. 審議事項

1. 第5回理事会の議事録は一部修正の上承認された。
2. 会員の新規加入について
 - ・個人37名，団体3の入会が承認された。
 - また，個人3名，団体1の退会が報告された。
3. 日本地理学会からの要請の取扱いについて
 - ・経緯と要請の概要及び対応案を検討した結果，地理学会の要請は理解できるが，地学の置かれている状況を考え併せ，今回の陳情は見合わせることにした。
4. 「GAIM 研究連絡会」設立について
 - ・IGBP（地球圏・生物圏国際共同研究計画）の第4領域のGAIM（Global Analysis Interpretation and Modelling）に関する研究連絡会を気象学会に設立し，新たな学問分野を開拓・推進する（代表世話人及川武久（筑波大学））として，設立が承認された。

5. 気象学会役員制度の見直しについて

- ・総合計画担当理事から役員制度の見直しについて、定款の改訂という側面から問題提起があった。地区理事、地区に固定しない理事の他に委託による理事の枠を設ける等の案について、それぞれの問題点を検討した。今後常任理事の役割と理事選出方法等について検討を進めることとなった。

6. 大会運営について

- ・春季大会の開催場所を気象庁以外の会場で行う場合の費用、応援体制等の問題点について検討を始めることになった。

7. 理事旅費規定の制定 (1992年7月2日から適用)

- ・従来、大会参加関連の理事のみ規定されていた旅費支給規定を常任理事会、全国理事会、評議員会への出席者に対しても適用することとした。この規定は各種委員会にも準用してよいことも認められた。

8. 事務局員の給与規定について

- ・1983年に見直された規定をその後の参照規定(国家公務員の給与規定)の変更に伴う改訂を行い、1992年7月1日より実施する。

第26回夏季大学テキストの頒布についてのお知らせ

「教育と普及」委員会

去る8月3～5日に開催した第26回夏季大学のテキストは好評につき、増し刷りをしましたので、ご希望の方はお申し込み下さい。

主題は「天気予報を支える科学」で、各講師とテーマは次のとおりです。

大気の渦・海洋の渦	木村 竜治
天気予報と天気図	永沢 義嗣
コンピュータによる天気予報	隈 健一
風を捉える	荒川 正一

数値モデルで見るメソスケールの大気の

流れ……………永田 雅

メソ天気系概念モデル……………入田 央

天気予報の歴史と新しい天気予報の目指

すもの……………宮沢 清治

値 段：一部1,000円

申し込み先：気象学会事務局

TEL. 03-3212-8341 (内線 2546)

FAX. 03-3216-4401

編集後記：世紀末である。こんなにも、世紀末が興味深いものとは、思わなかった。戦後永く支配した、冷戦構造を支配したパラダイムがかくも早く崩壊するとは、そして、それをどの理論も予測出来なかったとは、何と面白いことであろう。

同様のことが、気象学にも起きていると思う。古典的な地球流体の物理学から、地球科学へ、総合科学へと、パラダイムシフトが起きているように思われる。ただ、このようなパラダイムシフトは、渦中にあるものにとっては、全く、面白いものでもなく、しんどいものであることが問題である。

この未曾有のパラダイムシフトの時代に生きた幸せを十分に味わいたいものである。例えにがくとも。

(住 明正)

第27期の学会役員体制の発足に伴い、「天気」編集委員会も新しい体制でスタートいたします。編集委員長は藤谷が引き続き務めさせていただきますが、担当理事(副委員長)として編集にご協力いただきました、菊地勝弘氏(北大理)と安富裕二氏(気象庁)が退任されます。どうもご苦労さまでした。今後は自由な立場で編集委員会にご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

第27期は関口理郎氏(日本気象協会)と中井公太氏(気象庁)が担当理事(副委員長)として編集委員会に参加されます。その他の編集委員および地区編集委員に変更はありません。委員一同気持ちを新たに機関誌の充実に一層の努力をいたしますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

(編集委員長)